

令和4年度 秋期 システム監査技術者試験 解答例

午後Ⅰ試験

問1

出題趣旨	
<p>令和4年4月の改正個人情報保護法の施行によって、個人情報の保護に関する国際的動向及び情報通信技術の進展を踏まえ、個人情報を活用した新たな産業の創出及び発展への対応が図られることになった。事業者は、法改正による恩恵を受け一方で、法改正への適切な対応が必要となる。</p> <p>本問では、システム監査人に必要な、個人情報の活用に伴って発生するリスクの知識、リスクの程度に応じたコントロールを識別する能力、それらのコントロールの有効性を検証するために必要な監査手続と監査証拠を選択する能力を問う。</p>	

設問	解答例・解答の要点		備考
設問1	(i)	全短期保存データのリストから保存期限を過ぎたものを抽出したリスト	
	(ii)	a 保存期限を迎えた短期保存データ	
設問2	監査証拠	蓄積された一連の位置情報	
	確認事項	同じ位置情報が複数存在すること	
設問3	①	・監視機能	
	②	・アラート機能	
設問4	(i)	上位及びその下位ディレクトリに保存されている情報が窃取され、漏えいするリスク	
	(ii)	会員による開示データのダウンロードが正常に終了した記録が保存されたタイミング	

問2

出題趣旨	
<p>近年、感染症対策としてリモートワークが増加したが、申請書等への押印や署名が必要なために出社せざるを得ない場合が多くあることも明らかになった。そこで企業などにおいて、申請書等を見直す取組が行われるようになったが、その取組においては、表面的に押印や署名を不要とするだけで、業務の見直しが十分に行われていない場合もみられる。</p> <p>本問では、システム監査人として、本来の取組の趣旨に沿って、必要な業務の見直しが行われているかどうかを見極めた上で監査が行える能力を問う。</p>	

設問	解答例・解答の要点		備考
設問1	紙の申請書等が必要な事務処理の廃止と、記載項目の簡素化を検討したかどうか		
設問2	項番5	規則管掌部署に押印不要とする改訂を依頼したか	
	項番6	法務部に電子署名の利用の検討を依頼したか	
設問3	担当部署にヒアリングして、押印や署名を不要とする目標時期の設定を確認した。		
設問4	グループウェアの各機能と連携したワークフローの簡易な作成が難しくなる。		
設問5	ワークフローシステムのログを分析して、業務プロセスのボトルネックを解消する。		

問3

出題趣旨	
<p>運用業務で事故が発生すると業務に多大な影響を与える場合があり、システム運用業務を外部委託した場合でも、委託元企業は、委託先の運用業務のサービスレベルや作業手順、障害発生状況や再発防止策を十分に把握する必要がある。委託先に任せっきりにならないように、自らの責任において対策の検討、推進を実行することが大切である。</p> <p>本問では、システム監査人として、システムの運用業務を外部委託した場合のリスクを把握し、リスクを軽減するためのコントロール、マネジメント、ガバナンスの構築及び運用、並びにそれらを監査する場合の着眼点や監査手続を理解して監査を実施する能力を問う。</p>	

設問	解答例・解答の要点		備考
設問1	運用管理規程の変更があったときに運用手順書を見直すルールになっていること		
設問2	(i)	a 承認されていない作業を実施することによって二次障害を引き起こすおそれがある。	
		(ii) 抽出すべきデータ 夜間に発生した障害	
	確認すべき内容 作業の実施内容がC社の保守担当者に承認されていること		
設問3	障害対応がC社の責任において実施されていることを確認する必要があるから		
設問4	データ量の増加を検知するための仕組み及び実施可能な対策が記載されていること		